

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子育てサポートくっく		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 24日 ~ R7年 12月 12日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	R7年 11月 24日 ~ R7年 11月 24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児や保護者が通所を楽しみにしてくれており、安心して登園してくれている	子どもの気持ちを受け入れ、寄り添いながら支援するように心がけている	子ども達がより楽しめるように、遊びの内容を工夫する どのスタッフが対応しても専門的な支援を提供できるよう、研修等を通して支援の質を高めていく
2	一人一人に合った支援ができること 分離登園・親子登園どちらも受け入れ、送迎のニーズに答えることができる	子どもの特性を理解するように心がけ、支援方法をスタッフ間で毎回共有している 保護者の方の就労やきょうだい児がいるご家庭はもちろん、体調不良の場合でも登園できるように調整している	研修に参加したり、保護者の方と連携を取りながら支援を進めていく 就労やきょうだい児がいるご家庭の方でも、安心して登園できるように連絡を取り合う
3	保護者やスタッフの勉強会や相談会が開催されること ホームページや各SNSを利用し、活動報告や情報発信が充実している	月に1回臨床心理の先生を招いて、療育見学や相談会を実施している 地域開放日を設けたり、随時見学を受け入れていることをSNSで発信している	保護者の相談会への参加率が低いため、1人でも多くの保護者が参加できるようニーズに合わせた内容や、日程調整を行っていく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援を提供するにあたっての環境が不十分	・児童発達支援のために建てられた施設ではなく賃貸物件のため、整えられる環境が限られている	修繕を行いながら、市販の物を使って支援がしやすい環境を整えている
2	保育士中心の支援になってしまうため、専門分野に関して専門性に欠けるところがある	専門職を当事業所だけに配置することが難しい	保護者の希望があれば、同法人内の専門職(PT)に支援に入ってもらったり、遊びや関わり方の指導を行ってもらっている
3	事故や災害のマニュアル周知、説明が不十分 他の幼稚園・保育園の子どもと交流する機会が少ない	保護者が事業所に来園することがほとんどない場合、事業所内に掲示・閲覧可と設置しておいても確認すること自体が難しい コロナ禍から、イベントの機会が減ってきている	SNSツールを活用し、マニュアルの周知や説明を行っていく 園外活動や親子イベントの機会を増やしたり、地域開放日を積極的に設けていく